

自ら学ぶこと

誰も経験したことのない長い臨時休業期間で明らかになったのは、学習については、「自ら学ぶこと」と「学び続けること」が大切であるということです。「自ら学ぶこと」が大事なのは当然のことですが、これまでは、授業でみんなが同じ内容を同じペースで同じ時間学ぶことが前提で、「先生が教えてくれた時間が学んだ時間」という考えが強かったように思います。与えられた課題をこなし、テストのために勉強することも大事な学習ですが、課題を提出したら終わり、テストがすんだら終わりというのでは、本来の学びではありません。先生から指示されなくても、テストや課題がなくても、常に自ら学び続けることが大切です。

これから先の時代もいつ何が起こるかわかりません。「必要な時に自分で学べる力」は生涯にわたって大切な力だと思います。自分で時間や学習や生活をコントロールして、自分で学べる力をぜひ身に付けましょう。

学習は、「知りたいこと」「やりたいこと」が出てくると、自然と意欲が出てきて自ら進んでできるようになります。自分の好きなこと、関心のあることを、どんどん学んでください。目的や目標が見つかり、時間の使い方や、学習に向き合う姿勢が変わります。このたび3度目の宇宙飛行に出かけた卒業生の野口聡一さんも、北陵に入学した高校1年生の時に宇宙飛行士になることを決意し、夢の実現に向かって歩み始めました。

高校時代は、多くの生徒が普通科に通っていますが、大学に普通科はありません。なんらかの学部学科を選んで、大学を受験することになります。この学部、この大学に行きたいという強い気持ちやこだわりがあると、学習や受験に向けての集中力が高まり、いい結果につながるということは多くの卒業生が証明しています。

大学受験の先の目標を見つけて自ら学ぶ、これからはそういう人材が求められます。たとえば、東京大学のアドミッションポリシーには、期待する学生像として、「入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人」を歓迎すると書いてあります。これからの時代は、学歴よりも学習履歴、すなわちどのような学習を積み重ねてきたかが問われるようになります。生涯にわたって、自ら学び続けてください。

(令和2年11月20日)